

熊本県林業研究指導所

熊本市黒髪八丁目二二二の二

(電話〇九六三) 三八一三五〇八



林業機械研修風景

林業研究指導所の概要

林業研究指導所は昭和三十六年に熊本市清水町に設立されて以来、所管する林業研究指導業務の遂行に努力してきましが最近においては林業生産に対する技術の進歩とともに環境緑化自然保護等森林の公益性に対する県民の関心が高まり当所に対する要望も多様化してまいりました。県民が健康で文化的な生活環境を確保するには先ず周囲に緑が豊かに存在することが基本的な前提であります。

幸い本県は県土の六二%が森林面積という全国でも有数の林業県として産業はもとより県民生活の中に占める森林の役割は誠に大きいものがあります。然しながら近年における森林林業をめぐる諸情勢は木材需要の停滞、またこれに伴う木材価値の低迷、都市開発森林害虫等による自然環境の悪化等誠にきびしい状況にあります。そこでこれらに対処するため

一昨年熊本市立田山東北部の中腹黒髪町八丁目に事業費一億円をもって林業技術研修センターが開所し、昨年十一月林業研究指導所の本館並に付属舎が事業費四

億六千万円をもって新築落成いたしました。機構は総務課、指導調査部、研究部、研修部の一課三部制で二十四名の職員が研究指導業務に励んでおります。事業の概要は森林、林業に関する試験研究を実施しておりますが、特に県行政の方向と地域林業の振興をめざし多様性に富む本県の立地条件に適合する技術開発および改善をはかることを基本方針として

育林技術の開発では特にしいたけ原木用の育種、松跡地更新技術、森林保護では松くい虫、スギザイのタマバエの防除。特用林産関係ではしいたけ害虫の防除等の早期解明に全力を傾注いたしております。又林業技術研修センターは林業従事者および林業後継者等を対象として近代的な林業経営を行うために必要な林業機械ならびに林業技術についての学理および技術の研修教育を行い高度の実践的技術と経営能力を有する林業家を養成いたしております。

新築された本館には林業相談室、資料展示室等も設置されておりますので林業関係の方々だけでなく県民の皆様にご利用いただきたいと思います。

元来、私個人は熊本とは全く縁がなく、旧満洲(今の中国)の東北地区の瀋陽で生れて育ちました。だから瀋陽の瀋が私の名前になっています。ただ、父が益城町で、母は七滝なんです。特に母の方は阿部一族の記録の中にも出てくる豪士でしたので、小さい時から熊本の人出入りは大変多かったんです。熊本についてのイメージというのは子供の時にはなくて満洲に居て日本を偲ぶときには、富士山とか桜とか二重橋というものが自分の祖国のイメージだったんです。

熊本のイメージ

それだけでなく、映画とか雑誌(少年クラブ)なんかで勝手にイメージをつけていましたので、映画をみると俳優が美男美女なんです。自分のまわりを見るとあまり美男美女ではないもんですから、内地で落ちこぼれたもので、最もみにくい連中が植民地に流れてきたんじゃないかと、子供の時はそう思っていました。

中学校の四年修了の時、私は旧制の五高を受けに熊本にきました。熊本の大甲橋の際に叔父が衛藤病院を開業していましたが、旧日赤病院の跡地にあったんです。

旧制の五高をうけにきて、二つすごく安心したことがあったんです。一つは、必ずしも美男美女ばかりではないということ、ああ、俺も人間の仲間かと、こ



このコーナーは県出身者で各界で活躍しておられる方々を紹介するとともに、県政への提言などをお聞きするものです。

ふたたび「森の都」にかえしたら

東大教授 衛藤 藩 吉

東京虎ノ門のホテルオークラに、ある会合に出席しておられた先生を訪ねた。

「私は、熊本生まれではないですけど」と語りはじめられたが、先生のお話しを聞いてみると、熊本弁はもちろん、とても熊本のことを詳しく、

「熊本のような都市は、熊本らしい都市で、ふたたび「森の都」にかえしたら」と話されることには、熊本に対する深い愛着が感じられた。

東京大学教授。旧制一高、東京帝大法学部政治学科卒業、大正十二年十一月十六日生れ、著書には、「無告の民と政治」「日本の進路」「近代中国研究入門」等多数ある。

関係役職には、日本国際法学会理事、日本青年海外協力隊運営委員等
現住所 東京都杉並区久我山四ノ

四六ノ九